

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

北海道で生まれ育った団塊ジュニア世代の私は、大学で建築を学び、卒業後は、設計事務所か建設会社に就職し、住宅や商業施設などの設計・建設に携わるのだらうと思い描いていましたが、就職先は、そのいずれでもなかった。

バブル経済が崩壊し、就職氷河期に突入していた 1995 年(平成 7 年)に北海道住宅供給公社へ入社し社会人をスタートしました。

公社在職中は、良き上司や同僚・先輩方のもと、とても大変でしたが札幌市内の市街地再開発事業に携わり、施行者としての「まちづくり」を学ばせてもらいました。

その後、紆余曲折があり、現職(建設コンサルタント)に転職し、「都市計画」や「まちづくり」に関する業務を 20 年近く携わっています。技術士を目指すようになったのも、現職になってからです。

人口減少・少子高齢化への対応、頻発する大規模自然災害に対応できる強靱さ、都市施設や公共施設の老朽化対策、コロナ対策・ウィズコロナへの対応、低炭素・脱炭素に向けた取組みなど、「まちづくり」や「都市計画」が直面するさまざまな問題・課題に対応できる解決能力(スキル)が、この業界の技術者には求められていると感じており、私もそれに対応すべく日々、自己研鑽しています。未だ、発展途中です。

これまで関わらせていただいた方々との「ご縁」を大切にしつつ、これからも技術者の一人として、「まちづくりへの貢献」と「後進への伝承」ができればと考えています。

押野 和也(おしの かずや)

●建設部門
(都市及び地方計画)

勤務先

日本データーサービス株式会社



→次号は、加藤芳樹さん(建設部門)

私は、北海道旭川の出身で、関東の大学で土木工学を専攻し、軟弱地盤の支持力模型実験、数値解析を卒論・修論テーマとしました。縁あって北海道の建設コンサルタントに就職し、橋梁下部構造の設計に携わり、構造物を介して地盤の挙動を学びました。当時は「24 時間戦えますか」の働き方が今とは違う時代でしたが、業務では多くの方にお世話になり、良質な成功・失敗の経験を沢山させて頂きました(20 代)。

その後の転職先の建設コンサルタントでは、主に軟弱地盤の調査、盛土安定・沈下検討、盛土材料の確保、盛土品質・安定管理に携わりました。業務発注担当者や現場代理人の方々と問題解決のために一緒に悩んだのは貴重な経験です。公共事業において業務上の失敗は許されませんが、当時は失敗に対して今よりも寛容だったと思います。少しずつ現場力が鍛えられました(30～40 代)。

時代とともに事業の内容、質・量も変化し効率化が迫られる中で、先人や現場から学んだ技術・経験を次世代に正しく伝えられるのかを心配しています。

50 歳を過ぎてからは、睡眠時無呼吸症候群と診断され、CPAP(鼻マスクから一定圧の空気を送り、気道の閉塞を防ぐ)を装着して寝ています。53 歳には急性虫垂炎を経験し、54 歳で円形脱毛症(大小 5 か所)を床屋さんが教えてくれました。額と 500 円髷が繋がりがけてサロマ湖のようでした。

とうとう磯野波平(サザエさんの父親)の年齢を超えましたが、現在も現場で汗をかきながら野外調査を行っています。ゆっくり、ゆったりと趣味の時間を持てるのは、まだ先ようです。

西村 右敏(にしむら みぎとし)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社プラテック



→次号は、大谷高志さん(建設/総合技術監理部門)